

平成31年3月27日(水)

## 胡蝶の夢

胡蝶の夢は、中国の戦国時代の宋国に生まれた思想家で、道教の始祖の一人とされる人物の荘子による説話である。荘子の考えが顕著に表れている説話として、またその代表作として一般的にもよく知られている。

夢と現実とがはっきりと区別できないこと、またその区別を超越できないことのたとえ。

荘子が、蝶となった夢をみ、目覚めたのち、自分が夢のなかで胡蝶に変身したのか、胡蝶がいま夢のなかで自分になっているのか、と疑ったと言う話である。転じて、人生のはかないことのたとえともされ、「胡蝶の夢の百年目」ということばもあるが、これは、人生を振り返り、夢であったかのように思うこと、終わりが迫ったことに驚いて後悔することのたとえとなっている。

今思えば、「胡蝶の夢」のような一年でした。様々な行事や先生方・生徒たちとの出会いがありました。しかし、十分に自分の思い通りにふるまえたのか、力を伝えることができたのかとても不安な一年でした。

あと一年という限られた時間の中で、やらなければならないことは目白押しです。とりわけ、次の十年に向けた教育課程の見直しと、学校改革を成し遂げることが当面の大きな課題です。

また、悩み多き生徒たちに少しでも手助けできることはないか、安心して生活を形作るうえで自分で考えて進む力を育成することが大きな意味を持つと考えています。

部活動も全国で活躍する機会を持ってほしいし、勉学でも全国に打って出る力を育成したいと考えます。

来年度も、ふくしまイノベーション・ハイスクール事業は継続が決定しております。

来年度は、新たにタブレット380台と電子黒板が10台が配置されます。今年度の反省から、6月末までにはすべての品物を入れることができるよう尽力し、ネット環境においてもスムーズな展開を可能にする環境づくりを進めます。

合わせて、ソフト面での強化も図り、授業の中身を色濃くできる取り組みを進め、主体的対話的で、深い学びを進めてまいります。

来年度は、充実の一年であったと言い切ることができるために、組織的に取り組みますのでよろしくお願いいたします。

